

20150629

2015年6月29日　日本テレビ 定例記者会見

《要旨》

＜発表＞

・「映画 バケモノの子」

映画「バケモノの子」は細田守監督が3年がかりで構想を練った素晴らしい作品で、7月11日公開。イベントも渋谷ヒカリエにて開催決定。

・「夏イベント 超☆汐留パラダイス」

夏のイベントは7月25日から8月30日まで、昨年より内容を充実させて全面的にリニューアルする「超☆汐留パラダイス」を開催。社内、社屋、周辺エリア、広場等を使い、親子で楽しめるさまざまなイベントを展開していく。「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!」の笑ってはいけないバスを汐留で運行するなど、番組を活かした企画のほか、新企画「リアル脱出ゲーム×エヴァンゲリオン」も登場する。

1. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率データ

先週は視聴率三冠王を獲得した。20週連続三冠王が先々週で一度途切れたが先週復活できた。

月間三冠王は19か月連続。年間も折り返しの段階まできて、ありがたいことに全日、プライム、ゴールデンとも日本テレビは前年より数字を上げつつ三冠王。2位とも昨年より少し差をつけている。年度平均視聴率も前年度より少し数字を上げた。

・7月期改編

水曜ドラマ「花咲舞が黙ってない」はさらにパワーアップし、土曜ドラマ「ど根性ガエル」は人気アニメの続編ということで、あれから16年後のど根性ガエルを描く。日曜ドラマ「デスノート」はまったく新しいキャストとストーリーで臨む。

また、今週土曜日（7月4日放送）の「THE MUSIC DAY」は例年にも増してアーティスト

の顔ぶれが豪華で、データ放送連動の試みも好評。今年も予定している。

2. 営業状況

・放送収入

4月以降のタイムセールスは前年をやや上回っている。スポットセールスはエリアでは前年に少々届いていないが、7月は市況が上向くという予想もある。4月以降必ずしも良くはないが、その中でも日本テレビは比較的好調な視聴率のおかげで、6月、7月のスポットは前年をなんとか越えると見込んでいる。

・放送外収入

映画は「イニシエーション・ラブ」が37日間の興行で91万人の動員。「寄生獣 完結編」は65日間の興行で約114万人の動員。「名探偵コナン 業火の向日葵」は354万人の動員で、興行成績が非常に良かった。「ストレイヤーズ・クロニクル」は先週土曜日から始まったところ。

「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画に見るヨーロッパ絵画の真髄」は6月1日で東京展が終了した。総入場者数は66万6,000人余りで、1日平均で7,400人ぐらいの記録だった。現在は京都で開催しているが、そちらも入場者数が毎日5,000人を超えている。

3. その他

・自民党内の議員勉強会における発言について

新聞や番組等で見た限りではあるが、言論、表現の自由というのは民主主義の根幹であり、これを否定するような言動についてはやはり容認し難い。自民党的議員の中からこういった発言が出るというのは私の長い政治記者生活でもちょっと信じられない。自民党はどうなってしまったのかというのが率直な印象である。

・新人アナウンサーについて

3人とも非常にはつらつとやっている印象だ。しっかり研修、勉強して育ってもらいたい。番組の出演予定に関しては、まだレギュラーは決めていない。「笑ってコラえて」では、新人アナウンサーの日々の成長を追い、1年後どうなるかという企画で、最初の密着を何回かに分けて放送した。先週の金曜日には「ZIP!」「スッキリ!」「PON!」でお披露目した。

7月、8月は様々な番組に出していくという方向。レギュラーパン組についてはまた改めて発表する予定。

・「Hulu」と「Netflix（ネットフリックス）」について

「Netflix」が秋に日本で事業を展開することにより、動画の配信市場が活性化していくということを期待している。「Hulu」の競争相手ではあるが、切磋琢磨して視聴者に支持されるようにしたい。

また、私たちはさまざまなテレビ番組を制作する能力を持っているので、そういった日本テレビの力を十分に發揮して視聴者に支持されるコンテンツ作りをし、それを「Hulu」で提供することでユーザーの皆さんに楽しんでもらいたい。放送と配信事業の関係については、放送事業へのマイナスの影響はないと思っている。現に「Hulu」を始めて1年になるが、放送事業は視聴率、放送収入共にしっかり向上させている。

【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員

小杉善信 取締役 専務執行役員

丸山公夫 取締役 専務執行役員

(了)